

# つなぐ

さいちゅう  
レター

2020年  
5・6月号  
vol.15

## 肝・胆・膵疾患

### 早期発見プロジェクト始動!

～地域医療の力でがん治療の質が変わる～

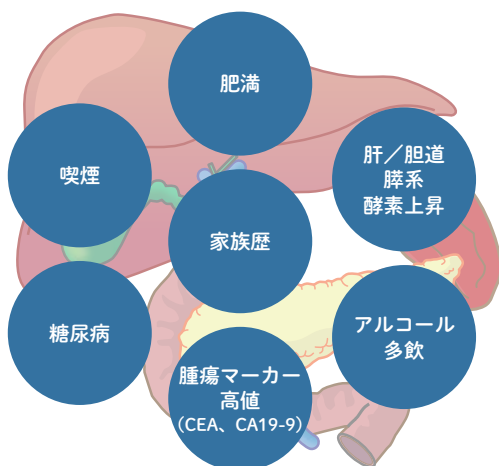
肝臓・胆嚢・膵臓領域疾患のリスクファクター（危険因子）を知って、  
早期発見につなげましょう!!

#### 1. 早期発見・早期治療がなぜ大事なの？

一般的に肝臓・胆嚢・膵臓は「沈黙の臓器」といわれ、悪性腫瘍が発症しても、初期の段階で自覚症状はありません。通常の健診や消化管がん検診で発見することも難しく、進行した状態や急性腹症に至る段階で初めて指摘されるケースも少なくないのです。特に胆・肝・膵がんは、早期発見ができれば80%以上の確率で根治をめざすことができます。だからこそ、私たちは早期発見・早期治療にこだわる必要があると考えています。

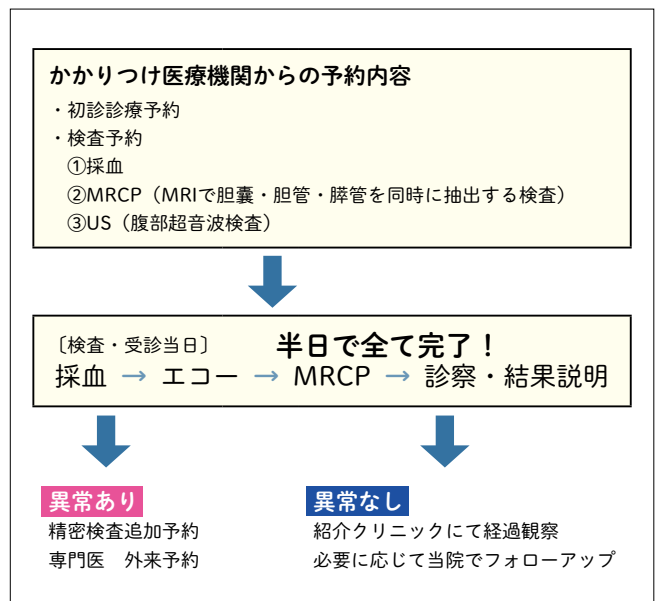
肝・胆・膵領域の悪性疾患は、手術、化学療法、放射線治療といったそれぞれの専門分野の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などが関わる形で治療を進めるのですが、まずは手術可能な段階で早期発見、早期治療をすることが何より重要です。特に、糖尿病、脂肪肝などは肝・胆・膵悪性疾患の高リスクとされています。

#### 肝胆膵疾患の発症リスクファクター



#### 2. 専門医療チームによる新たな取り組み

この度、当院ではこの肝・胆・膵領域の疾患に対して早期発見・早期治療をめざし、かかりつけ医療機関と協力して、ご紹介いただいた患者さん方へ半日で必要な検査を実施し、結果説明まで行う体制を新たに整えました。半日で検査結果をお伝えできることで、働く世代の方々にも利用していただきやすくなります。もちろん検査結果により、さらに精密検査が必要であれば、引き続き当院で診療を行い、問題なければこれまでどおりかかりつけ医療機関で経過観察を行っていただきます。



ご自身でリスクファクター（危険因子）について気になる場合は、主治医か、もしくはかかりつけ医療機関でご相談ください。皆さんの「ちょっと気になる」が、早期発見につながります。

# 新院長就任のお知らせ



院長

えびはら たもつ  
海老原 全

## 【院長のprofile】

- ・座右の銘：不逆流生（十五代目 片岡仁左衛門の自作の言葉です。「流れに逆らわず、流れを活かして生きる」）
- ・趣味：テニス 読書
- ・休日の過ごし方：家でリフレッシュする

## ご挨拶

この度、高木院長の後を受け、第11代院長に就任いたしました。当院は1915年に「済生会芝病院」としてスタートして以来、「済生の精神（分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべること）」に基づき、生活困窮者支援を含め、必要とされるあらゆる人々に対し医療を行い続け100年以上が経過しました。これからも社会の求めに応えられる高機能病院として力を高め、皆さんの生活に貢献することを使命としてまいります。

そして、この先の100年に向けても、当院は変わらず、全ての人々を支えていく病院としてあり続けたいと考えております。

現在、当院は35診療科を有し、総合的な診療を行える体制を取っております。そしてそれぞれの診療科の医師のみならず、多職種にわたる医療者が、皆さんに最も適した医療を提供できるよう日々研鑽しております。

今後も職員一同、患者さんや家族の皆さんにとって、温かい病院でありたいと願い、どのようなお困り事にも最良の医療でお応えしてまいります。

## SAISEIKAI NEWS

### 2020年度 新人職員が入職しました

2020年4月1日（水）、新たに141名の新入職者を迎えました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の広がりの影響で、例年のような明るい雰囲気というわけにはいきませんでした。



141名の新人職員は、それぞれ社会人としての新たなスタートを切りました。病院は多くの職種がチームで仕事をする職場です。新人もベテランもお互いに協力し合い、当院をご利用いただく患者さんやご家族の皆様へ、いつでも笑顔であたたかみのある医療が提供できるよう、新たな気持ちで職員一同取り組んで参ります！

## お知らせ

### マスクのご準備とご着用をお願い

当院では新型コロナウイルス感染予防対策として、症状の有無にかかわらず、受診患者さん、付き添いの方の他、ご入院される患者さんについても、**院内ではマスクのご着用をお願いいたします。**また、マスクは事前にご準備の上、ご来院されますようお願いいたします。



「なでしこ基金」へのご寄付ありがとうございました。  
心よりお礼申し上げます。

2020年2月～2020年3月

50万円 由井 克巳様

